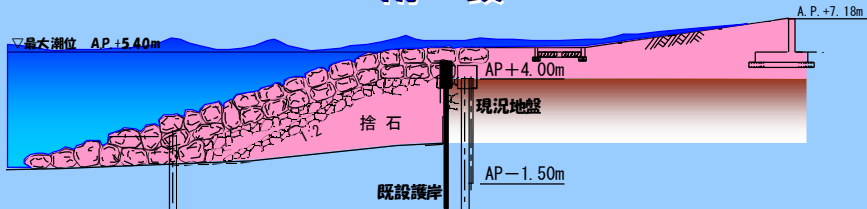


2丁目工事着手（平成18年）から 6年後の検証・評価

< 防 護 >

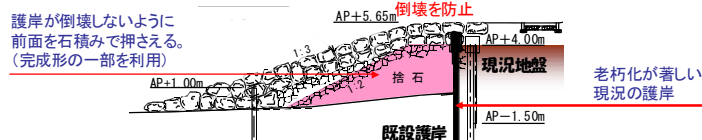


平成24年11月

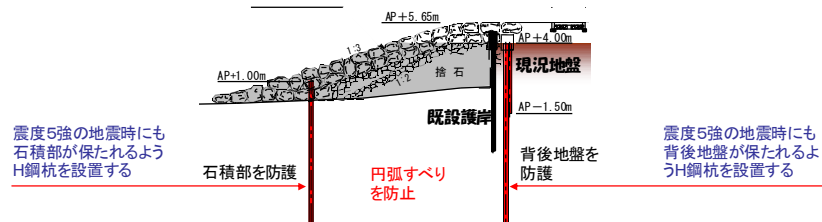
1

1. “防護”に対する4つの指標

- ① “緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
◇ 老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。



- ② “耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
◇ 震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
◇ “ ” 背後地盤が “ ” 。

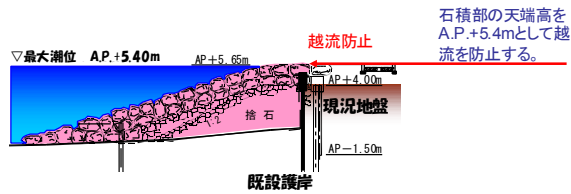


2

③ 最大潮位での"越流防止"への指標

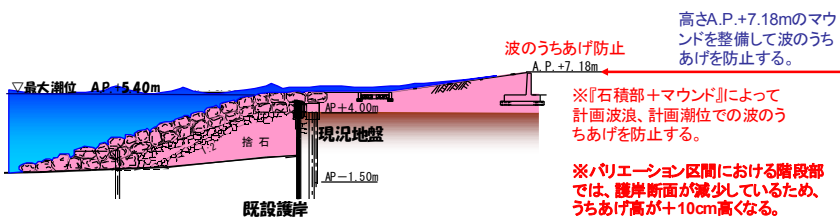
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。

◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。

◇高潮時にも波が背後地に及ばないようにA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



2. 検証基準

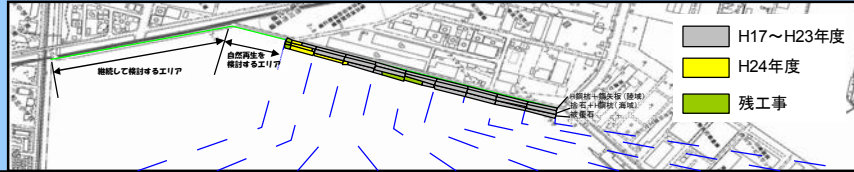
目標達成基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成25年度 ※新事業計画より、 完成目標年度とした。	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標が それぞれ施工延長900mにわたって、 ①緊急対応への指標 100% ②耐震の指標 100% ③越流防止への指標 100% ④高潮災害防止への指標 - を確保すること。

注)④のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、背後地のまちづくりに調整中であるため、数値目標は設定しない。

3. H24年度工事の検証結果(工区ごと)



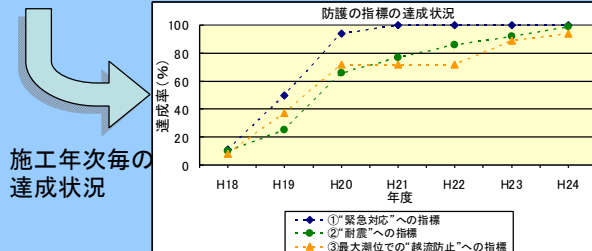
工種・箇所区分		⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事	捨石+H鋼杭(倒壊防止)	捨石								
	H鋼杭									
陸城工事	被覆石(バリエーション)									
	H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)									
陸城工事	被覆石(バリエーション)									
		17m	30m	45m	121m	116m	134m	434m		

	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況
①緊急対応	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%
②耐震(H鋼杭:海陸)	一部	70.6%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%
③越流防止(+5.4m)	0.0m	0.0%	5.4m	100.0%	5.4m	100.0%	5.4m	100.0%	5.4m	100.0%	4.0m	74.1%
④高潮災害防止(+7.18m)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※上表の各評価については、(区間ごとの進捗率)×(区間延長/全体延長)の合計で算出します。

4. H24年度工事の検証結果(指標ごと)

- ① "緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 ⇒ 100/100(完了)
- ② "耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
◇震度5強の地震時にも石積部分が保たれるようH鋼杭を設置する。
◇ " " 背後地盤が " " 。
⇒ 99/100(予定)
- ③ 最大潮位での"越流防止"への指標 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。
⇒ 94/100(予定)
- ④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。 ⇒ 後背地との調整中



施工年次毎の達成状況

5. H24年度工事の評価

7

目標達成基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。
--------	---------------------------



検証結果	① "緊急対応"への指標	⇒100/100完了(100/100)
	② "耐震"への指標	⇒ 99/100予定(92/100)
	③ 最大潮位での"越流防止"への指標	⇒ 94/100予定(89/100)
	④ "高潮災害防止"への指標	⇒ 後背地の街づくりと調整中



注)カッコ内はH23年度

防護の評価	<ul style="list-style-type: none">・"緊急対応"が完了済み、"耐震"がH24年度末までに7%向上予定、"越流防止"が同様に5%向上予定である。・第1期まちづくり地区前面のバリエーションはH25年度に施工予定で、計画900m区間の"③越流防止"の基準も来年度達成する見込みである。・④"高潮災害防止"への指標についても、後背地のまちづくり計画との調整を進め、高潮災害に対する地域の安全確保を図る必要がある。・なお、バリエーション整備区間の石積み護岸断面積が減少しているため、高潮防護に対する背後地の必要高さが、標準断面整備区間より高くなることに注意が必要である。
-------	--